
[たこ焼き兄弟。]

夕凪詩人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「たこ焼き兄弟。」

【Zコード】

N7800A

【作者名】

夕凪詩人

【あらすじ】

どんなものにも心がある。仲の良いたこ焼き兄弟にスポットを当てた、ハートフルだつたらいいなあ的内容ディ。

(前書き)

たこ焼きの話です。
たこ焼きを食べながら読むとこっこ面白〜・・・ことを祈ります。

ジユ・ジユ・・・・

シニ=シニ=・・・

「アーティストの世界」は、アーティストの視点から、アートの世界を覗く一冊。

「あつ、はい！じゃあこれで。」

100円ちょいね!! 毎度あり!!!

卷之三

俺は
・・・たこ焼きです。

名前は……たこ焼・き太郎（笑）

いや、笑へる老やないよね？たゞ焼きたせ？太郎じやなくて老

まあ・・・笑おうにも口が無いんですけどね。

？？？『お兄ちゃん！何してんの？』

声の発信原は俺のいる場所の反対側

き太郎『おお！たこ焼き兄弟の紅一点、普段はしつかりもので、お兄ちゃんの前でだけは甘えん坊になると言つ定番の妹キャラ設定のたこ焼・き六子じゃないか！』

き六子。何でそんな説明的なの?』とかお兄ちゃんアセヨ』

えつ？あれ？甘えん坊キラは？

き六子』でゆーかー、チョーうかんですナジー・マジウゼHー！アヒ

ヤヒヤヒヤヒヤ…』

作者さん！設定ミスつてますよー？妹つてこんなんじやないつ
しょー？

？？？『兄さん！』

？？？『兄上！』

今度は後ろと左横から声がした。

き太郎『おお！いつも一人一緒にたこ焼・き次郎とたこ焼・き三郎
じゃないか！どうしたんだそんなに慌てて』

き次郎『き四郎兄さんが・・・き四郎兄さんが・・・』

なつ何があつた！？まさか！？

き三郎『・・・食べられました。』

やはり・・・か。

「んーー、たこ焼きおいしいーー！」

「ウチのたこ焼きはどこにも負けねえよー！」

少女は六個入りだつたたこ焼きの一つを食べ、残りを袋にしまつ
た。

「お母さんにも食べさせて上げよーっと。」

き太郎『たこ焼・き四郎オオオオオオオオオオオオオオ…』

俺は叫んだ。

まあ、口なんかないから声は出でないけど。

き次郎『兄さん！あの女・・・異常です！たこ焼きを真ん中から食べるなんて・・・』

落ち着け、き次郎。

き三郎『普通、右利きなら右端から、左利きなら左端からではないのですか！？それを・・・真ん中なんて・・・』

確かにその怒りももつともだ、だから落ち着け、青のりが頭から落ちてきてるぞ。

き三郎『むつ、失礼。それで兄上、これからどうします？』

『どうするつてもなあ・・・蓋閉められちゃってるし、開いたところで食われてジ・エンドしかねえし。

き六子『てゆーかー、チョーダリィんですかビー？』

き六子黙れ。

き次郎『そうだ、き五郎！おまえはどう思ひ？』

そういうや、たこ焼き兄弟五男坊のたこ焼・き五郎は、まだ一回も喋つてないな、何を考えているんだ？

き五郎『・・・自分・・・たこ入つてしませんから・・・』

太・次・三『・・・なんかごめん。』

「たつだこまーーお母さん、たこ焼き買つてきたから一緒に食べよーー！」

「あら、お帰りゆり子。たこ焼きなんて気が利くわね
ゆり子はたこ焼きを開け、机の上に置いた。

少し冷めたとはいえ、まだこ焼きのソースが香る。

「ああ、辛抱たまらん！！！」

ゆり子は爪楊枝でたこ焼きの一つを刺し、口にほりこんだ。

「うーん、やつぱりおいし……ん？……あれ、これたこ入ってないや。」

き太郎『き五郎オオオオオオオオ！…！』

俺は叫んだ（本日2度目）。

まあ、やつぱり音にはならないけどね

き次郎『・・・・まさか本当に・・・タコが入つていなかつたなんて・・・き五郎・・・』

き三郎『兄上！もし私にもタコが入つていなかつたら・・・どうすればいいんですか！？焼きですか！？たこ焼きにタコが入つてなかつたら、焼きになるんですか！？焼・き三郎ですか！？』

落ち着けき三郎、かつお節が落ちるぞ。

き三郎『むつ、失礼。』

き次郎『きつ、き太郎兄さん！大変です！空に爪楊枝が！…！』

き太郎『なに！？やつら、温かいうちに食べるつもりか！？』

き三郎『あつ、兄上！！爪楊枝が、爪楊枝があああ！？』

ブスツ。

き太郎『きつ、き三郎オオオオオオ！…！』

き三郎『うわああああ！くつ、食われるうううう！…！』

パクッ。

「あらつ、本当においしいわね。ちょっと冷めてるけど。」

「でしょー、100円だつたんだよ！安いよねー！」

「6個で100円・・・安い・・・か？普通でしょ？」

「もうーお母さんつてば！アハハッ！」

「ウフフツ

「「ウハハハハツ」「

き太郎『き三郎オオオオオオオオオオオオオオ！――！』

俺は叫ん・・・以下略。

き次郎『これで残つたのは僕とき六子と兄さんだけです・・・』
六個兄弟だつた俺たちが、今では半分か・・・運命とは、残酷だ
な。

き次郎『兄さん・・・僕はこんな運命は受け入れられない！食われ
ていつた弟たちの為にも、僕は奴らに一矢報いてやる！――』

なつ、何をするつもりだき次郎！？

き次郎『ウオオオオ！――』

き次郎の頭のかつお節が踊り狂つてゐる！？まさかこの技は・・・
俺ですら習得できなかつた伝説の奥義・・・

き次郎『ハアアアア！――奥義！《発熱》！――！』

き太郎『きつ、き次ろおおおおおおおお！――！』

「次はこれ食べよーっと」

ゆり子は爪楊枝をたこ焼きに刺し、口に運んだ。

ゆう子はそう語りながら、たゞ焼きをお茶で置くと流し込んだ。

き太郎『き次郎・・・立派だつた、ここはやはり、この兄も後に続
かねばな・・・』

俺は叫ばずに、ありえないくらいかっこいい顔で、空を見上げた。青空が目に染めるぜ！みたいな顔もしてみた。

んがね。

き六子『お兄ちゃん・・・みんな食べられちゃったの?』
き太郎『き六子・・・何でこのタイミングで本来の妹キヤラに戻る

んだ?
△

き六子『お兄ちゃん！－空に爪楊枝が・・・2本も！－！－！』
えつ？無視？

まあ、いいや、今はそんな場合じゃ無いもつなので精一杯焦るか。
き太郎『なつ、なにい！？くつ、奴ら、同時に二つ食いつもりか
！……』

き六子『お兄ちゃん……』のままじや食べられちゃうよ……『
俺は視線を（目なんて無いけど）き六子に向けた。

き太郎『き六子、俺たちたこ焼き兄弟は食われるために生まれた…
・確かに食われるのは恐い、しかし、食われるということは幸せで
もあるのだ！それを理解しなさい……』

き六子『お兄ちゃん……』

き太郎『き六…』

ブスウツ！…！

き太郎『グアアツ！…！つづ爪楊枝が…俺の頭頂部にい…
しかも2本ともお…』

き六子『お兄ちゃんあああん！…』

き太郎『き六子！…兄の食われっぷりをとくと見るので！…』

「あらあら、おいしそうだね」

「ちょっとお母さん！たこ焼きに爪楊枝を刺したまま持つてたら落
としちゃうよ？」

「大丈夫よ、2本も刺してんだから。だいたい、いくら母さんが年
だからってそんなドジ踏むわけ…あつ！…』

「ああ！…』

ボトツ。

「お母さんだから言つたでしょ！…早く拾わないと…3秒ルー
ルよ！」

「わっ、わかってるわよー早く拾わないと……ああっ……」

「ああっ！……」

母親の体がバランスを崩し、姿勢制御の為に床に手をついた。グニヤッ。

母親の手の下から嫌な感触。

手を上げたそこには・・・潰れたたこ焼きがあつたそうな・・・。

『お六子』お兄ちやあああん！…』

「も～っ！お母さんてば」

「悪かったって思つてるよ、そんない怒りなじぐれ

母親が潰れたたこ焼きを台所へ捨てに席を立つ。

「むうう～たこ焼きもあと一個か・・・」

「おお～い！父さん帰つたぞ～い～ヒックッ！」

「あ～～お父さんひてば酔つてる～～お酒飲んで帰つてきたわね～？」

「おお！TAKOYAKI（たこ焼き）じゃないか～～」

ヒヨイッ

「あ～～お父さん、お父さん・・・」

パクッ～

老六子『ギャー……オヤジに食われるうつ……』

ムシャムシャ。

「ん――――んまい!――よし――今夜はTAKOYAKI(たこ焼
き)だあ!――!」

「も――、お父さんてば、読みにく^クローマ字表記なん^てしあや
つて、アハハッ!」

「ワハハッ」

いつのまにか母親が帰ってきている。

「ウフフッ」

「――「アウワハハハッ」」

その日、ゆり子の家族は笑顔に包まれて穏やかに過^ルしましたと
れ・・・。

余談だが、その日のゆり子宅の夕食は、たこ焼きではなくお好み
焼きだったそうな・・・。

T
H
E
•
E
N
D

(後書き)

ちなみにこの話で出たゆり子は『勇者の話。』の使いまわし……
もとい、友情出演……なんか違うな?
ん~・・・じや、リサイクルで。
そんな感じです(オイ)。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7800a/>

〔たこ焼き兄弟。〕

2011年1月30日02時45分発行